

《担当者名》西出真也

【概要】

生理学はからだの正常な機能を学ぶ学問である。将来、病気や障害、およびそれらの治療やリハビリテーションを学修するためには、ヒトの正常な機能を理解することが必須である。

【学修目標】

1. 内分泌の概要と個々のホルモンについて説明できる。
2. 消化吸収とエネルギー代謝について説明できる。
3. 正常な循環と呼吸について説明できる。
4. 循環と呼吸の運動時の変化について説明できる。
5. 尿の生成と体液について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	内分泌（総論）	内分泌とは ホルモンの構造と分類 受容体	西出真也
2	内分泌（視床下部と下垂体）	視床下部ホルモンと下垂体前葉ホルモン ホルモンのフィードバック調節 下垂体後葉ホルモン	西出真也
3	内分泌（各論）	糖代謝 成長と発育 生殖	西出真也
4	消化と吸収	消化液のはたらき 肝臓の機能	西出真也
5	エネルギー代謝	運動時のエネルギー源 基礎代謝量と安静時代謝量 代謝当量	西出真也
6	循環（心臓の興奮）	心臓の構造 心臓の刺激伝導系 心臓の興奮	西出真也
7	中間のまとめ1 循環（心機能の調節）	第1回～第5回のまとめ 前負荷と後負荷 心周期	西出真也
8	循環（血流）	心拍出量 血圧 運動時の循環系の変化	西出真也
9	呼吸（換気運動）	呼吸器系の構造 換気運動	西出真也
10	呼吸（ガス交換）	肺胞の構造 肺胞におけるガス交換 肺循環 動静脈酸素分圧較差	西出真也
11	呼吸（呼吸の調節）	肺胞換気量 呼吸数 最大酸素摂取量 無酸素性作業閾値	西出真也
12	血液（総論・血液ガス）	血液の組成と正常値 酸素と二酸化炭素の運搬 酸素解離曲線	西出真也
13	中間のまとめ2 血液（赤血球・血小板）	第6回～第11回までのまとめ ヘモグロビンの代謝	西出真也

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		血液型 血液凝固と線溶	
14	腎機能	ネフロン 尿の生成 クリアランス	西出真也
15	酸塩基平衡	重炭酸緩衝系 アシドーシスとアルカローシス	西出真也

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講義中の提出物 30%

定期試験 70%

【教科書】

岡田隆夫 他編 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学第5版」 医学書院

坂井建雄 他編 「カラー図解 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版 改訂第4版」 日本医事新報社

【参考書】

玉木彰 監修 「リハビリテーション運動生理学」 メジカルビュー

本間研一 監修 「標準生理学 第9版」 医学書院

岡田 泰伸 監修 「ギャノン生理学 原書25版」 丸善

【備考】

1. 教科書に加えて、電子ファイルにて資料を配布する。

2. 講義中に「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学第5版」を参照するので毎回持参すること。

3. 「カラー図解 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版 改訂第3版」は電子版（アプリ）を持参することが望ましい。

4. 生理学の範囲に含まれ、必ず学修すべき内容の一部を「生命科学」（作業療学科必修）でも講義する。「生命科学」の内容も合わせて理解を深めること。（詳細は講義中に説明する）

【学修の準備】

配布する資料や教科書を用いて予習と復習を行うこと（60分）。

予習復習の方法を初回講義中に説明する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。